晴輪雨読

津﨑晴功

〝晴輪雨読〟とは私の造語で、「輪」とは数ある趣味の中で最近特に熱中しているサイクリングのこと。晴れた日は自転車、雨の日は読書を楽しむ、即ち晴輪雨読である。

私が自転車に目覚めたのは今から四年前の初夏のころ。当時は持病の腰痛で毎日悶々としていた。自慢する訳ではないが、私の腰痛は椎間板ヘルニア、坐骨神経痛そして脊椎管狭窄症の三層構造である。スポーツジムで水中歩行と固定自転車のペダル漕ぎをやってみたが改善の兆しはなく、家に閉じこもっていた。

そこへある友人が嵐山までのサイクリングに誘ってくれた。痛みで歩くの

もつらいが、何故か自転車には乗れる。彼も腰痛持ちで、それを知っていたのだ。普段使いのいわゆるママチャリで桂川サイクリングロードを走り、途中何度も休憩しながら嵐山まで完走、帰路は松尾大社から洛西ニュータウン経由で無事に帰宅した。心配した腰痛の悪化や筋肉痛もなく、翌日からはスポーツ自転車の情報を集め出した。

私は何ごとにもまず道具から入る癖がある。もしやるとすると、友人のような錆々（さびさび）のポンコツ車では厭なのだ。早速市内の専門店を覗き、店主の講釈を謹んで聞いた。確たる信念もなく、好みもはっきりしていなかったが、十万円程度の品は中国製なので少し奮発、結局 Gary Fisher の MONTARE という米国ブランドの台湾製を組み立てて貰うことにした。当時は段ボール入りの豚マンや薬漬けウナギが話題になっていたので中国製は避けた次第だ。店主から、売るにあたってはヘルメット着用と水筒常備が条件と言われたが、それには有り難く従うこととし、ツール・ド・フランスに

出場する選手たちのようなブルーのカッコ良いヘルメットも購入した。
最初は尻が痛く二十キロ程度、大原野神社辺りまでが限界であったが、努力の甲斐あって走行距離は徐々に伸び、半年もすると嵐山往復四十四キロが平気になった。少し慣れると〝錆々〟自転車の友人とは縁を切って専ら単独行とし、途中で彼と会っても軽く挨拶をする程度になってしまった。
あれ以来四年も経ち、今は、もう一台折り畳み式DAHONのHelios SLを追加し、気分により使い分けて楽しんでいる。昨年からは走行距離を記録するようになり、春には琵琶湖一周も達成し、昨年の年間記録は二千三百キロであった。また、今春は桜花爛漫の大阪城まで走った。淀川を下り毛馬橋から大阪市内へ、往復七十五キロ、これまでで最長距離である。今年の目標は三千キロ。そして尾道から今治まで「しまなみ海道」を完走しようと目論んでいる。
それにしてもサイクリングとは奥行きの深いスポーツだと思う。まず道具

が多彩で、こだわれば際限がない。また年齢や体力に合わせて無理なく楽しめる。春や秋の晴れた日、サイクリングロードを走り、途中で休憩、渇いた喉を潤すとまさに甘露甘露である。

途中で同年輩の同好者と話を交わすことがある。食道がんの治療を終えた人やこれから心臓のバイパス手術予定の人もいる。お互いに元気で八十歳まで楽しみたいと声を掛け合っているが、何とか実現したいものである。

もう少し若く体力のあった頃から始めてみたかったなどと厚かましく考えることもあるが、今は切っ掛けを作ってくださった朋友奥田さんに心から感謝している。

「〃錆々〃の奥田眞也さん、本当に有難う！」

（平成二十三年十月十一日～十二日、しまなみ海道を無事完走しました）